

週間火山概況 (平成 20 年 7 月 4 日 ~ 平成 20 年 7 月 10 日)

気象庁地震火山部

いずれの火山についても予報警報事項に変更はない。

7 月 10 日現在の火口周辺警報、噴火警報及び噴火予報等の発表状況は以下のとおり。

火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）

桜島

火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）

三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島

火口周辺警報（火口周辺危険）

硫黄島

噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報

福徳岡ノ場

噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）

樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢、新燃岳)、口永良部島

噴火予報（平常）

上記以外の火山



図 1 火口周辺警報及び噴火警報発表中の火山の噴火警戒レベル等の状況(7月10日現在)

噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワード（本概況末の対応表参照）で示されている。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

今期間、現地調査を行っていないが、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体が大きく隆起する地殻変動が継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要である。

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

5日に第三管区海上保安本部が上空から行った観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水が確認された。福德岡ノ場付近の海面では、これまで長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、10日に2回小規模な噴火が発生した。昭和火口での噴火は6月28日以来である。なお、南岳山頂火口では、5日17時08分に小規模な噴火が発生した。南岳山頂火口での噴火は5月20日以来である。いずれの噴火でも大きな噴石¹⁾の飛散や火砕流の発生は観測されなかった。

10日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,300~2,800トン（前回2日、1,100~1,500トン）と多くなった。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。桜島の昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、2008年2月には火砕流を伴う噴火が発生、4月から6月には爆発的噴火²⁾の回数が増加するなど次第に活発化している傾向が認められている。

南岳山頂火口及び昭和火口から2km程度の範囲では、大きな噴石¹⁾及び火砕流に引き続き警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき³⁾）にも注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、それより小さく風の影響を受ける噴石は、例えば「風の影響を受ける小さな噴石」という表現を用いる。
- 2) 桜島では、噴火のうち、爆発音、噴石の火口外への飛散、一定基準以上の空振等を観測した場合に爆発的噴火としている。
- 3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね400m程度で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。
火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から半径約1 kmの範囲に大きな噴石¹⁾を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、噴火に対する警戒が必要である。

上記以外の火山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。

【参考】 噴火警報と噴火警戒レベル等の対応表

警報・予報	噴火警戒レベルとキーワード	噴火警戒レベルを導入していない火山に対するキーワード	海底火山に対するキーワード
噴火警報	レベル5（避難）	居住地域嚴重警戒または山麓嚴重警戒	周辺海域警戒
	レベル4（避難準備）		
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	入山危険	
	レベル2（火口周辺規制）	火口周辺危険	
噴火予報	レベル1（平常）	平常	平常